

平成 24 年度

事業所名 : グループホーム さくら花泉(A棟ユニット)

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	第0390900090号		
法人名	有限会社 さくら		
事業所名	グループホームさくら	花泉	A棟
所在地	岩手県一関市花泉町涌津字二ノ町43-1		
自己評価作成日	平成 24 年 8 月 31 日	評価結果市町村受理日	平成25年1月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/03/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JivovocCd=0390900090-00&PrefCd=03&VersionCd=02
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0021 岩手県盛岡市中央通三丁目7番30号
訪問調査日	平成 24 年 9 月 20 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念に基づき、「その人らしさ」をモットーに、生活習慣を大切にしながら、家族的な雰囲気の中で、穏やかに安らぎのある生活の支援に努めている。
ホーム裏に畑があり、四季折々の、野菜の種まきや管理、収穫作業、その見学と利用者様とスタッフが楽しみながら行なっている。収穫物は全て食卓で提供されている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

近隣には一般住宅は少ないが、散歩などを通して、駅や市役所、中学校、スーパー、コンビニ等に往来する地域の方々との交流を図っている。またAED設置を地域にお知らせするなど、事業所の理解促進にも努めている。理念である「その人らしさ」を利用者個々に日常生活の場でさりげなく個別の役割として活かされ、菜園作りにも多に活かしながら自然体に支援している。開設3年目を迎え、法人姉妹施設との交流を基本としながらも事業所独自の行事を実施したり、「喫茶の日」や「副食選択メニュー」等利用者の気持ちを尊重した支援に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

【評価機関:特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会】

事業所名 : グループホーム さくら花泉(A棟ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全職員が理念を理解し、共有してサービスの提供を実践している。 年間目標の標語を募り、目標に沿った介護に努めている。	年度初めの法人全体研修や運営者・管理者との職員面談において、理念の確認と共有を図りながらケアに努めている。本年度は職員皆で年度目標について、話し合いのもと「チームでつなぐ安心ケア」に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事、夏祭り、互市等に積極的に参加している。近所の皆さんとも気軽に挨拶を交わせる関係になっている。	買い物等で往来する地域の皆さんとふれあうほか、夏祭り等地域行事に参加して交流している。今後は推進会議の知恵も借りながら、地域交流室を活用した保育園児など子供たちとの触れ合い交流を考えたいとしている。	自施設も街づくりの一員であるという意識で地域行事への手伝い参加や声掛け等、また施設行事への誘い等積極的な関りを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通し、地域交流室の提供やAEDの設置等様々な情報の提供を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の運営推進会議を開催。会議で出された意見や行事内容等を参考に生活の質の向上を目指し、ケアにあたっている。	利用者やホームの状況等についての報告・了承のみならず避難訓練や地域防災体制のあり方、緊急時等の協力医療機関の重要性など、熱心な話し合いがなされており、現場に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	入所状況や事故報告など連絡を密にし、協力関係を築いている。	隔月の運営推進会議での助言や意見交換が主であるが、普段の相談等については、電話やメールで行っている。また必要に応じて、直接役所に必要書類を持参したり、連絡を取り合うなど円滑な連携が確保されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は夜間のみで、日中は開放している。常時、所在確認、目配りを行い拘束しないケアに心がけている。又、研修に参加するなど、スタッフのスキルアップにも努めている。	内外研修や法人全体研修等で身体拘束排除・虐待防止等を学ぶ機会を設け、全職員で意識の共有を図っている。利用者の一人外出にも職員間で目配り心配りにより安全確認をしながら見守りを実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加し、その資料や内容を報告する場を設けると共に回覧で周知し、全スタッフで情報を共有できるようにしている。又、ホーム独自で勉強会を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全体勉強会や会議で学ぶ機会があり、理解を深めて活用して行きたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に、契約書や重要事項説明書の内容を説明し、理解していただいて契約している。入所後もいつでも疑問や質問に答えることを併せて説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族や第三者からの苦情や意見を幅広く聴くために、玄関に意見箱を設置している。又、運営推進会議への参加を呼びかけ、意見の場を広く設けている。	意見箱設置を含め、面会時や電話の際など意見や思いを気軽に表しやすい雰囲気作りを心がけている。このほか毎月のお知らせを工夫しながら、事業所・職員と家族等との気軽な関係づくりに努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議や施設での会議を儲け意見交換を行なっている。今年度は利用者様の身体状況を理解して頂き、姉妹施設合同の行事の見直し、自施設での行事が増えた。	職員ミーティングや法人全体会議、毎日の申し送りなどにおいて、気づいたことや意見を気軽に話し合う職員関係が築かれている。他施設見学希望が職員から出ており、是非実施しスキルアップを図りたいとしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務表作成時、希望休を聞き入れ作成している。年に一度代表、管理者との個人面談があり、目標や要望等の話し合いの場がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の参加や勉強会の開催、ケアプランの作成など、実習スキルアップを図れるよう進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加盟し、研修会の参加や情報交換がされている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様より不安や要望等の聞き取りを行なっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様からも実情や心配、要望等を傾聴し、安心して生活できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族、介護支援専門員、スタッフとの話し合いにて、ニーズに即したサービスの提供と対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る範囲の家事や畑作業などを一緒にを行い、感謝を伝え、次に繋がる支援を行なっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的にくら便利や案内の通知を行なっている。外泊、外出、面会は自由に行なっただき、家族との関係を大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ふるさと訪問や馴染みの地域への外出支援。友人、知人の面会等も自由に行なっている。	希望者を中心に「ふるさと訪問」を継続的に実施している。自宅やその周辺、墓参りや知人宅訪問等馴染みの人・場所へ訪問するほか、突然のリクエストにも対応するなど、そのつながりを大切にしたいとして支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お互いに声を掛け合ったり、助け合ったりされる姿が見られている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	出会いを大切に、契約終了後も必要に応じて支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常会話や定期的な聞き取りを行い、スタッフ間でカンファレンスを開き、プランに反映させている。	外出時や車中、病院受診時の待ち時間、入浴時等個別性を活かしながら思いや意向を確認し、職員間で話し合っている。意思確認できない場合は家族と話し合い、利用者にとって最良と思われる支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や居宅ケアマネから頂いた情報を素に、日常会話の中で知りえた情報、面会時に知りえた情報を書き加えている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様との会話を多く持ち、スタッフ間で情報を共有して支援するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者のモニタリングと計画作成担当者、スタッフの棟内カンファレンスを行い計画を立て、家族への説明と確認をいただいている。	計画作成担当者がアセスメントを行い、利用者担当の意見を参考に利用者及び家族の希望を酌み入れ介護計画を作成している。また利用者の状態変化時を除いて、3ヶ月ごとに見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状態を個別記録し、状況を把握しプランの見直しに活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりに合わせたサービスで通院や入院時の洗濯など、家族の事情を考慮し対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアの協力を得て歌や踊り等、披露して頂き楽しんでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からのかかりつけ医に継続受診し、適切な医療を受けられるよう支援している。	かかりつけ医の変更はなく、継続した受診が確保されている。受診対応は職員が行っており、受診時の経過や受診結果は電話にて家族に報告している。かかりつけ医との関係も極めて良心的な関係で支援されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内に看護師は配置されていないが、必要時には、訪問看護との連絡調整を図って行きたい。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は状況経過を報告。入院中も定期的に面会し、状況を把握すると共に、家族に状況を確認している。又、通院時にはスタッフが付き添い、病院関係者との関係作りを心がけている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	今後看取りを行なう事を前提に協議をしている。	常時医療処置が必要な重度化については、対応できないことを説明するとともに、終末期・看取りについては、将来的に対応するため医師の確保等その対応について、鋭意検討を重ねている。併せて、職員の意識の共有について同時並行して考えたいとしている。	看取りに関してかかりつけ医との連携体制を整え、現在ある指針を柱に全職員が段階的な研修を重ね家族の意向を図りながら、終末期に向けた体制を整備される事を期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDが設置されており、職員は救命講習を受けている。又、急変時のマニュアルが作成され、常時目を通せるようになっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施。想定訓練で、利用者様、スタッフ相互で身につくよう行なっている。	毎年、避難訓練(火災想定、夜間想定、昼間想定)を実施している。近隣地域との防災協力については、具体的な内容等、その協力体制確保に努めていきたいとしている。なお大震災を契機に備蓄にも配慮している。	地域防災組織や消防機関、運営推進会議の意見等を得ながら、このホーム・立地の中での近隣の協力体制について、検討していただきたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、言葉遣い、視線、声の大きさに注意し、対応している。	利用者それぞれの生活暦や経歴(畑作り一筋)などを参考にしながら、利用者が「その人らしく」生活が継続できるように心がけている。また日常において言葉遣いやさりげない声掛け誘導等職員間で意識合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	畑作業や散歩など、希望を受け、随時対応している。毎週1回の選択食や月2回の喫茶の日で好みの飲食物が選択され、提供している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースで、生活できるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みの理美容室に出かけたり、出張理容を受けたり、希望を取り入れている。衣類の選択は自主性を重んじている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材や行事等を取り入れ、季節感を味わって頂いたり、野菜の下準備や食器洗いや拭き方、片付けの手伝いをして頂いている。好き嫌いのある方には別メニューで提供している。	食べたい物を聞きながら献立に反映し、時々近隣スーパーへ買いものに出かけている。自分たちで育てた野菜を一番美味しい時に収穫し食べるなど、楽しい食事に心がけている。食器拭きなど出来る方が手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量はチェック表に記録し把握している。制限のある方は医師の指示に従って提供している。乳製品の定期購入で栄養補助されている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、各々の能力に応じ、自力や介助で口腔ケアを行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録にて排泄パターンの把握、誘導や声かけを行い、自立に向けた支援を行なっている。又、尿器使用でオムツ、パットの使用量の削減と爽快感の持続を支援している。	改善取り組みには確実な成果が出ており、個別の排泄リズムが記録として示され、記録を活かした声掛け誘導で利用者の表情にも安心感が窺える。職員間での士気も上昇し、工夫が活かされた支援となっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便確認表の記録で把握し、乳製品や水分の提供。散歩や体操等、個々に応じた対応を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴希望を確認し対応している。体調に応じては、清拭等の支援も行なっている。	移動式浴槽を活用して、利用者の身体状況に合わせた心地良い入浴を心がけているとともに、週3回を目安とし午前と午後入浴に対応しながら、清潔の保持等に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中帯でも自由に休息して頂いている。遮光、温度等に配慮し、気持ちよく休まれるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の説明書を確認すると共に情報を共有しながら、服薬支援や状態の変化の確認にも努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日の役割作業やこれまでの楽しみや生きがいは継続して行って頂き、張り合いのある生活を送れるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域の催し物や季節ごとのドライブ。又、気分転換の外出など希望を取り入れ支援している。家族との外出外泊は常時受け入れている。	近隣のスーパーなどへの買い物、周辺の散歩のほか菜園作りに精を出している。また利用者の希望などによって、四季折々にドライブへ出かけている。冬や寒い時期には、ホーム前にある広場に出て、日光浴や外気浴をしながら気分転換につなげている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理可能な利用者様には所持して頂き、希望時には買い物支援も行なっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には事務所の電話が使用できるようになっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとの展示や装飾で季節感を取り入れている。 行事の写真や外出時の写真を展示して、記憶をたどり楽しまれている。	リビングは明るくゆったりと造られ、窓からは前庭や広場の木々の葉などから四季が感じられる。壁には利用者と職員が一緒に作成した、貼り絵や切り絵、行事の写真がきれいに飾られ、居心地がよい。ソファも新たに備えられ、のんびり過ごす場となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	地域交流室にテーブル、椅子があり、外を眺められたり、ホーム園庭にも椅子が置かれており、庭を散歩されたり、一休みされたりして過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真や仏壇、家具を置かれたり、テレビを持ち込まれたり、居心地よく生活できるよう対応している。	洗面台、クローゼット、ベッドが備え付けとしてあり、着替え等がきちんと整理されている。自分や家族の写真等を壁に飾ったり、大きなテレビや縫いぐるみ、位牌等を思い思いのところに置いて、自分の部屋を演出している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内に洗面台があり、口腔ケアや洗面、小さな洗濯等容易に出来るようになっている。		